

小規模保育施設における保育運営と 施設計画に関する基礎的研究

Preliminary Classification of Small-scale Day Nurseries and Their Daily Operation

辻川 ひとみ* ・ 吉住 優子**

TSUJIKAWA Hitomi

YOSHIKUMI Yuko

This paper presents the distribution of 637 small-scale day nurseries (6-19 children) throughout Japan attending to a set of attributes considered relevant. These attributes are presented in groups, depending if they are related to the operation of the facility, to the building where the facility is located, the use of sanitation, the relation with the community and so on. As a result, some of the facts found on this study are: 1) Half of the facilities divide the children in three groups by age. 2) The analyzed facilities newly built are 20%, while 70% were renovated or refurbished. 3) The space available per child in the nursery room is between 1.98 m² and 3.3 m² in 40% of the facilities. 4) The facilities with a private garden are 40%, while 50% use near public parks. 5) The facilities with isolation room for sick children are 60%.

1. はじめに

本研究は小規模保育事業施設のあり方を、施設内容と管理運営の両側面からの実態調査を通じて明らかにし、今後の施設計画の指針を得る事を目的とするものである。既報^{1) 2)}では、その第1段階として、小規模保育事業を実施している全国の自治体を対象としたアンケート調査を実施し、制度の概要と現状を把握した。続いて本報では、小規模保育施設が本来は保育施設でない空き家やビルの空室等を利用して運営されている事が多いことを鑑み、施設の運営状況と施設状況の実態、保育室等の諸室と設備の現状、および連携施設との関係について、明らかにする事を目的とする。

2. 調査概要

本調査概要を表1(次頁)に示す。調査対象は既報^{1) 2)}で行った全国の自治体を対象とした小規模保育事業に関するアンケート調査(第一次調査)で、有効回答を得た234件(有効回答回収率84.7%)の自治体のホームページに公開されていた小規模保育施設3,068件を対象に、保育運営と施設に関するアンケート調査を行なった。調査期間は2019年10月中旬から2020年1月下旬までとし、各施設の所長宛てに調査票を郵送で配布・回収を行った。その結果、637件の有効回答が得られ、有効回答回収率は20.8%であった。都道府県別分析対象施設を表2(次頁)に示す。

* 居住空間デザイン学科 教授

** 居住空間デザイン学科 研究員

表 1 調査概要

| | |
|--------|---|
| 第一次調査 | 全国自治体における小規模保育の内容と認可状況等の現状把握 |
| 調査期間 | 2018 年 9 月上旬から同年 12 月中旬まで |
| 調査対象 | 小規模保育事業を行う全国の 286 自治体 (調査時未導入自治体 10 件) |
| 調査方法 | 各自治体の担当部署宛てに調査票を郵送にて配布・回収した |
| 回収集計 | 回収数:234 件 有効回答数:234 件 有効回答回収率:84.7% |
| 主な調査項目 | 1)小規模保育事業の概要 2)実施施設の認可基準 3)A・B 型施設における運営基準と施設基準 4)C 型施設における運営基準と施設基準 5)今後の小規模保育について |
| 第二次調査 | 小規模保育施設における保育運営と施設に関する現状把握 |
| 調査期間 | 2019 年 5 月上旬から 2020 年 1 月下旬まで |
| 調査対象 | 全国の小規模保育施設 3068 件 |
| 調査方法 | 各小規模保育施設宛に調査票を郵送にて配布・回収した |
| 回収率 | 回収数:659 件 有効回答数:637 件 有効回答回収率:20.8% |
| 主な調査項目 | 1)管理・運営状況 2)施設の状況 3)諸室の状況 4)認可時の状況 5)戸外活動場所について 6)施設平面図と保育室の使い方 |

表 2 都道府県別分析対象施設数 (N=637)

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|----|-----|----|------|----|-----|----|------|----|
| 北海道 | 31 | 茨城県 | 13 | 長野県 | 3 | 京都府 | 23 | 岡山県 | 2 | 佐賀県 | 6 |
| 岩手県 | 22 | 埼玉県 | 31 | 岐阜県 | 3 | 大阪府 | 98 | 広島県 | 4 | 長崎県 | 10 |
| 宮城県 | 33 | 千葉県 | 34 | 静岡県 | 39 | 奈良県 | 5 | 山口県 | 2 | 熊本県 | 1 |
| 山形県 | 5 | 東京都 | 46 | 愛知県 | 27 | 和歌山県 | 1 | 香川県 | 1 | 大分県 | 4 |
| 福島県 | 4 | 神奈川県 | 56 | 三重県 | 2 | 兵庫県 | 38 | 愛媛県 | 7 | 鹿児島県 | 2 |
| 栃木県 | 12 | 新潟県 | 2 | 滋賀県 | 22 | 鳥取県 | 4 | 福岡県 | 23 | 沖縄県 | 21 |

3. 分析対象施設における管理・運営状況

分析対象施設では、受託児童の定員を 6～10 人としている施設が全体の 8.2%、11～15 人としている施設が 22.7%、16～22 人としている施設が 69.1%であった。分析対象施設における管理・運営状況を表 3 (次頁) に示す。

① 開設年度

開設年度をみると、対象施設全体では小規模保育事業が国の認可事業として位置づけられた 2015 年以降に開設された施設が大半 (86.6%) を占めるが、2014 年以前に開設された施設が 13.3% もあった。これらは、グループ型家庭的保育から移行したものと思われる。

② 年齢別保育活動グループ数

児童の年齢別保育活動グループ数を規模別に見ると、全体で最も多かったのは 3 グループに分けている施設 (51.5%) であったが、児童の年齢に関わらず 1 グループで行っている施設も 24.5% 見られた。定員規模別に見ると、6～10 人では 1 グループが最も多く (67.3%) 見られた。睡眠時間の長い 0 歳児と歩きはじめた 1 歳児、さらに活動が活発になる 2 歳児を同じグループで保育することは難しいと考える。

③ 保育活動の時間差

2 グループ以上に分けて保育していると回答した施設のうち、給食や手洗い、排泄時の混雑を避け、時間差を設けていると回答したのは 52.0%であった。

④ 午睡から目覚めた児童の対応

午睡から目覚めた児童の対応を見ると、最も多かったのは、その場で待たせると回答した施設 (38.9%) であった。次に多かったのは、退室させて遊ばせる (33.3%) であった。

⑤ 給食の状況

給食の状況を見ると、自園調理を行なっている施設が最も多く(84.0%)、外部搬入を行なっている施設は8.8%、6.9%の施設は未だに計画中の段階であった。

表3 分析対象施設の管理・運営状況 (N=637)

| | | 計 | 規模（受託児童定員数） | | |
|-----------------------------|-----------------|------------|-------------|-----------|-----------|
| | | | 6～10人 | 11～15人 | 16～22人 |
| 計（母数） | | 637（100.0） | 52（8.2） | 145（22.7） | 440（69.1） |
| 開始年度 | 2014年以前 | 85（13.3） | 13（2.0） | 21（3.3） | 51（8.0） |
| | 2015年 | 124（19.5） | 18（2.8） | 35（5.5） | 71（11.1） |
| | 2016年 | 112（17.6） | 6（0.9） | 24（3.8） | 82（12.9） |
| | 2017年 | 130（20.4） | 2（0.3） | 25（3.9） | 103（16.2） |
| | 2018年 | 119（18.7） | 8（1.3） | 18（2.8） | 93（14.6） |
| | 2019年 | 67（10.5） | 5（0.8） | 22（3.5） | 40（6.3） |
| 年齢別 保育活動 グループ数 | 1グループ | 156（24.5） | 35（5.5） | 49（7.7） | 72（11.3） |
| | 2グループ | 136（21.4） | 14（2.2） | 34（5.3） | 88（13.8） |
| | 3グループ | 328（51.5） | 3（0.5） | 58（9.1） | 267（41.9） |
| | 4グループ | 6（0.9） | － | － | 6（0.9） |
| | 5グループ | 2（0.3） | － | 1（0.2） | 1（0.2） |
| | 状況による | 9（1.4） | － | 3（0.5） | 6（0.9） |
| 年齢別 保育活動 時間差設定 | 1グループの為時間差無し | 141（22.1） | 33（5.2） | 43（6.8） | 65（10.2） |
| | 時間差あり | 331（52.0） | 13（2.0） | 61（9.6） | 252（40.3） |
| | 時間差なし | 160（25.1） | 6（0.9） | 39（6.1） | 115（18.1） |
| | 個人ごとに対応 | 5（0.8） | － | 2（0.3） | 3（0.5） |
| 午睡から 目覚めた 児童の 個別対応 | 退室させて遊ばせる | 212（33.3） | 19（3.0） | 51（8.0） | 142（22.3） |
| | その場で待たせる | 248（38.9） | 16（2.5） | 59（9.3） | 173（27.2） |
| | 0歳1歳は遊ばせ、2歳は待たせ | 139（21.8） | 14（2.2） | 26（4.1） | 99（15.5） |
| | 0歳は遊ばせ、1歳2歳は待たせ | 2（0.3） | 1（0.2） | － | 1（0.2） |
| | 基本は待たせるが状況による | 36（5.7） | 2（0.3） | 9（1.4） | 25（3.9） |
| | | | | | |
| 給食の現状 | 自園調理 | 535（84.0） | 43（6.8） | 113（17.7） | 379（59.5） |
| | 外部搬入 | 58（8.8） | 7（1.1） | 20（3.1） | 31（4.9） |
| | 計画中 | 44（6.9） | 2（0.3） | 12（1.9） | 30（4.7） |

各欄の数字は事例数、()内は637件に対する百分率を示す。
注) 自治体からの特別要請を受けて20人以上を定員としている施設は18件であった。

4. 分析対象施設の施設状況

分析対象施設の施設状況を表4(次頁)に示す。

① 建物種類

建物種類を見ると、全体で最も多かったのは専用建物(31.7%)、次に多かったのは集合住宅(非居住スペース)(23.2%)であった。施設規模で見ると6~10人規模では戸建住宅が最も多く(36.5%)、11~15人規模では戸建住宅と専用建物が同率で最も多く(28.3%)、16~22人規模では専用建物が多く(35.2%)、施設規模が大きくなるにつれ、専用建物の割合が増えていく傾向が見られた。

② 建物構造

建物の構造を見ると、全体で最も多かったのは鉄骨造で46.3%であり、次に多かったのは木造で34.1%であった。

③ 建築年

建物の建築年を見ると、全体で最も多かったのは2011年以降のもので30.0%であった。

④ 所有形態

建物の所有形態を見ると、賃貸との回答が最も多く、全体の72.5%と大半を占めていた。

⑤ 併設施設

併設施設があると回答した施設は全体の15.0%で、そのうち幼稚園やこども園を併設している施設は28.0%であった。一方、庁舎や学習塾/カルチャーセンター等(その他)を併設している施設も僅かながら見られた。

⑥ 児童一人当たりの施設面積

児童一人当たりの施設面積で最も多かったのは、 $5\text{ m}^2 \leq x < 8\text{ m}^2$ (44.1%)で、次に多かったのは $x < 5\text{ m}^2$ (20.7%)であった。規模別に見てもほとんど差は見られなかった。

⑦ 児童一人当たりの保育室面積

児童一人当たりの保育室面積で最も多かったのは、 $1.98\text{ m}^2 \leq x < 3.3\text{ m}^2$ (39.6%)で、次に多かったのは $3.3\text{ m}^2 \leq x < 4.11\text{ m}^2$ (29.7%)であった。規模別に見ても最低面積基準の前後の面積を確保している施設が多いと言える。

表4 分析対象施設の施設状況 (N=637)

| | | 計 | 規模 (受託児童定員数) | | |
|---------------|--|-------------|--------------|------------|------------|
| | | | 6～10人 | 11～15人 | 16～22人 |
| 計 (母数) | | 637 (100.0) | 52 (8.2) | 145 (22.6) | 440 (69.1) |
| 建物種類 | 専用建物 | 202 (31.7) | 6 (0.9) | 41 (6.4) | 155 (24.3) |
| | 集合住宅 (居住スペース) | 90 (14.1) | 15 (2.4) | 19 (3.0) | 56 (8.8) |
| | 集合住宅 (非居住スペース) | 150 (23.2) | 5 (0.8) | 30 (4.7) | 115 (18.1) |
| | 戸建住宅 (兼用住宅含む) | 119 (18.7) | 19 (3.0) | 41 (6.4) | 59 (9.3) |
| | 学校・幼稚園等の空き教室 | 18 (2.8) | 2 (0.3) | 5 (0.8) | 11 (1.7) |
| | 商業・事務施設 | 40 (6.3) | 2 (0.3) | 7 (1.1) | 31 (4.9) |
| | その他 | 18 (2.8) | 3 (0.5) | 2 (0.3) | 13 (2.0) |
| 建物構造 | 木造 | 217 (34.1) | 21 (3.3) | 65 (10.2) | 131 (20.6) |
| | 鉄骨造 | 295 (46.3) | 23 (3.3) | 61 (9.6) | 211 (33.1) |
| | RC造 | 110 (17.4) | 7 (1.1) | 18 (2.8) | 85 (13.3) |
| | SRC造 | 7 (1.1) | - | - | 7 (1.1) |
| | 混合 | 1 (0.2) | 1 (0.2) | - | - |
| | 不明 | 7 (1.1) | - | 1 (0.2) | 6 (0.9) |
| 建築年 | ～1959年 | 4 (0.6) | 2 (0.3) | 2 (0.3) | - |
| | 1960年～1970年 | 12 (1.9) | 3 (0.5) | 2 (0.3) | 7 (1.1) |
| | 1971年～1980年 | 44 (6.9) | 3 (0.5) | 17 (2.7) | 24 (3.8) |
| | 1981年～1990年 | 117 (18.4) | 11 (1.7) | 27 (4.2) | 79 (12.4) |
| | 1991年～2000年 | 117 (18.4) | 13 (2.0) | 25 (3.9) | 79 (12.4) |
| | 2001年～2010年 | 82 (12.9) | 13 (2.0) | 18 (2.8) | 51 (8.0) |
| | 2011年以降 | 191 (30.0) | 5 (0.8) | 36 (5.7) | 150 (23.5) |
| | 不明 | 70 (11.0) | 2 (0.3) | 18 (2.8) | 50 (7.8) |
| 所有形態 | 自己所有 | 170 (26.7) | 12 (1.9) | 44 (6.9) | 114 (17.9) |
| | 賃貸 | 462 (72.5) | 40 (6.3) | 100 (15.7) | 322 (50.5) |
| | その他 | 5 (0.8) | - | 1 (0.2) | 4 (0.6) |
| 居住状況 | 居住している | 123 (19.3) | 12 (1.9) | 36 (5.7) | 75 (11.8) |
| | 居住していない | 514 (80.7) | 40 (6.3) | 109 (17.1) | 365 (57.3) |
| 併設施設 | 保育施設 | 19 (3.0) | 3 (0.5) | 5 (0.8) | 11 (1.7) |
| | 幼稚園・こども園 | 26 (4.1) | 3 (0.5) | 7 (1.1) | 16 (2.5) |
| | 学童保育施設 | 7 (1.1) | - | 1 (0.2) | 6 (0.9) |
| | 老人・社会福祉施設 | 15 (2.4) | - | 3 (0.5) | 12 (1.9) |
| | その他 | 27 (4.2) | 3 (0.5) | 2 (0.3) | 22 (3.4) |
| | 併設なし | 543 (85.2) | 43 (6.8) | 127 (19.9) | 373 (58.5) |
| 児童1人当たりの施設面積 | $x < 5\text{ m}^2$ | 132 (20.7) | 12 (1.7) | 25 (3.9) | 95 (14.9) |
| | $5\text{ m}^2 \leq x < 8\text{ m}^2$ | 281 (44.1) | 23 (3.6) | 65 (10.2) | 193 (30.3) |
| | $8\text{ m}^2 \leq x < 11\text{ m}^2$ | 128 (20.1) | 8 (1.3) | 28 (4.4) | 92 (14.4) |
| | $11\text{ m}^2 \leq x < 14\text{ m}^2$ | 52 (8.2) | 4 (0.6) | 13 (2.0) | 35 (5.5) |
| | $14\text{ m}^2 \leq x < 17\text{ m}^2$ | 17 (2.7) | 1 (0.2) | 6 (0.9) | 10 (1.6) |
| | $17\text{ m}^2 \leq x < 20\text{ m}^2$ | 8 (1.3) | 1 (0.2) | 2 (0.3) | 5 (0.8) |
| | $20\text{ m}^2 \leq x < 23\text{ m}^2$ | 7 (1.1) | 3 (0.5) | 2 (0.3) | 2 (0.3) |
| | $23\text{ m}^2 \leq x < 26\text{ m}^2$ | 1 (0.2) | - | 1 (0.2) | 1 (0.2) |
| | $26\text{ m}^2 \leq x$ | 11 (1.7) | - | 3 (0.5) | 7 (1.1) |
| | $x < 1.65\text{ m}^2$ | 6 (0.9) | 1 (0.2) | - | 5 (0.8) |
| 児童1人当たりの保育室面積 | $1.65\text{ m}^2 \leq x < 1.98\text{ m}^2$ | 6 (0.9) | - | 1 (0.2) | 5 (0.8) |
| | $1.98\text{ m}^2 \leq x < 3.3\text{ m}^2$ | 252 (39.6) | 21 (3.3) | 43 (6.8) | 188 (29.5) |
| | $3.3\text{ m}^2 \leq x < 4.11\text{ m}^2$ | 189 (29.7) | 11 (1.7) | 48 (7.5) | 130 (20.4) |
| | $4.11\text{ m}^2 \leq x < 5\text{ m}^2$ | 84 (13.2) | 8 (1.3) | 21 (3.3) | 55 (8.6) |
| | $5\text{ m}^2 \leq x$ | 100 (15.7) | 11 (1.7) | 32 (5.0) | 57 (8.9) |
| 保育室設置階 | 地下1階 | 1 (0.2) | - | - | 1 (0.2) |
| | 1階のみ | 538 (84.5) | 46 (7.2) | 127 (19.9) | 365 (57.3) |
| | 1階と2階 (または3階) | 29 (4.6) | - | 3 (0.5) | 26 (4.1) |
| | 2階のみ | 56 (8.8) | 5 (0.8) | 11 (1.7) | 40 (6.3) |
| | 3階以上 | 10 (1.6) | 1 (0.2) | 3 (0.5) | 6 (0.9) |
| 屋外遊戯場の設置 | 同一敷地内に設置 | 257 (40.3) | 19 (3.0) | 56 (8.8) | 182 (28.6) |
| | 建物の屋上に設置 | 6 (0.9) | - | 1 (0.2) | 5 (0.8) |
| | 敷地外に設置 | 15 (2.4) | 1 (0.2) | 1 (0.2) | 13 (2.0) |
| | 近隣の公園等を使用 | 347 (54.5) | 31 (4.9) | 83 (13.0) | 233 (36.6) |
| | 本園の園庭を使用 | 12 (1.9) | 1 (0.2) | 4 (0.6) | 7 (1.1) |

各欄の数字は事例数、()内は637件に対する百分率を示す。

⑧ 保育室設置階

保育室の設置階を見ると、1階に設置されていたものは全体の84.5%と大半を占めていたが、3階以上に設置されていたものも僅かながら見られた。

⑨ 屋外遊び場の設置

屋外遊び場を施設と同一敷地内に設置していると回答した施設は、集合住宅の屋上テラスを利用するなど屋上に設置しているものを含めても、全体の41.2%であった。また、敷地外に遊び場を持つ施設や本園の遊び場を共同利用している施設も見られた。一方で、近隣の公園を使用していると回答した施設は54.5%で全体の半数程度であった。

5. 諸室・設備の設置状況

保育室等の諸室および設備の設置状況を以下に示す。

① 保育室の分離

年齢別の保育室分離について図1に示す。「0歳児と1・2歳児を家具等により別スペースで分離」が39.1%で最も多く、次いで「0歳児と1・2歳児を別室で分離」が35.8%であった。0歳児と1歳児以上については、全体の7割以上で別室分離、もしくは別室が難しい状況下においても別スペースでの保育が行われており、0歳児分離に対する必要性の高さが明らかとなった。

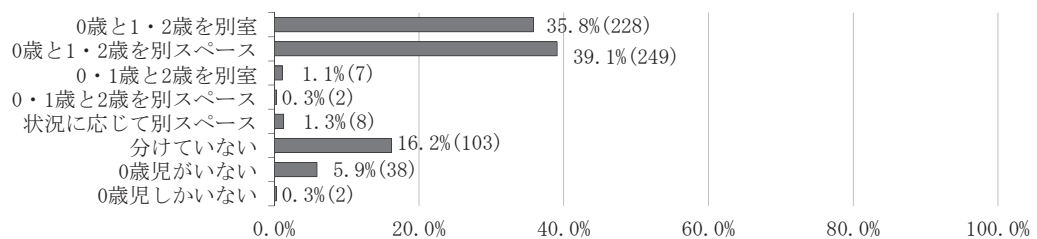


図1 年齢別の保育室分離 (N=637)

② 静養室(隔離室)

静養室(隔離室)の設置について図2に示す。「隔離機能をもつ静養室を設置」が9.6%にとどまり、「事務室と兼用」が48.2%で最も多かった。また「設けていない」が31.5%、「保育室内に臨時スペースを設置」が9.4%であり、全体の約4割が、突発的な病児等の隔離に対応できる諸室を持たない状況にあることが分かった。



図2 静養室(隔離室)の設置 (N=637)

③ 調乳場所

調乳場所の設置について図3に示す。「調理室の一面」が、54.8%で最も多く、次いで「保育室の一面」が21.2%であった。調乳専用室にあたる「区画された調乳室」は17.6%となり、独立した調乳場所は全体の2割に満たない設置状況であることが分かった。

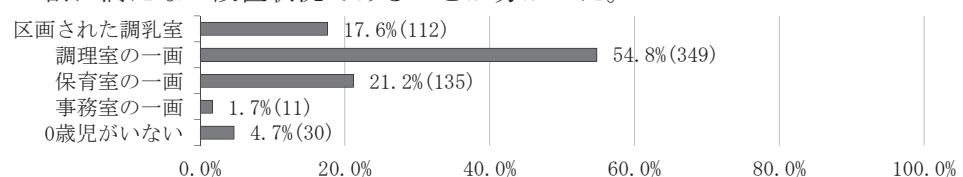


図3 調乳場所の設置 (N=637)

④ 沐浴設備(シャワー)

沐浴設備(シャワー)の設置について図4に示す。「便所に沐浴設備を設置」が47.4%で最も多く、次いで「専用の沐浴室・浴室」が35.6%であった。さらに「保育室の一面」が5.5%、「その他(事務室の一面等)」が0.5%となり、全体の約9割が沐浴設備を設けていたが、一方で、約1割が「設けていない」との回答であった。

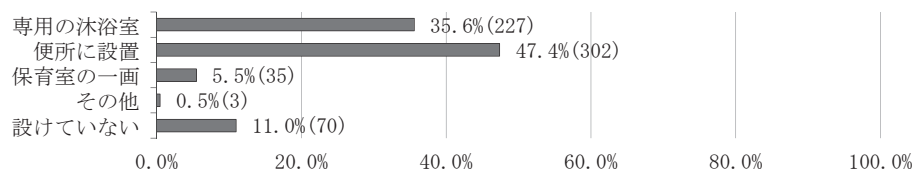


図4 沐浴設備(シャワー)の設置 (N=637)

⑤ 児童用便器

児童用便器の設置について図5に示す。「児童専用便器」が85.2%で最も多く、「おまる」もしくは「職員用便器」との組み合わせで使用するケースを加えると、約9割が児童専用便器を設置していることが分かった。一方で「大人用便器に補助具」が9.6%、「おまるのみ」が1.6%の回答となり、全体の約1割の施設では、児童専用便器を設置していないことが明らかになった。

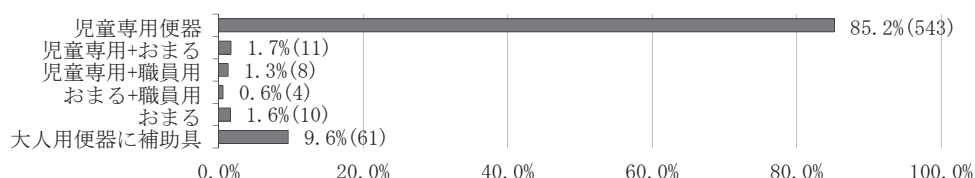


図5 児童用便器の設置 (N=637)

⑥ 便所の分離

児童用便所と職員用便所の分離について図6に示す。「児童用と職員用を分けている」は全体の8割以上となり、約1割が「分けていない」との回答であった。特に定員6～10人規模の施設においては、「分けていない」の割合が多く、施設の開設場所による改築・改修の制約等が影響しているのではないかと考えられる。

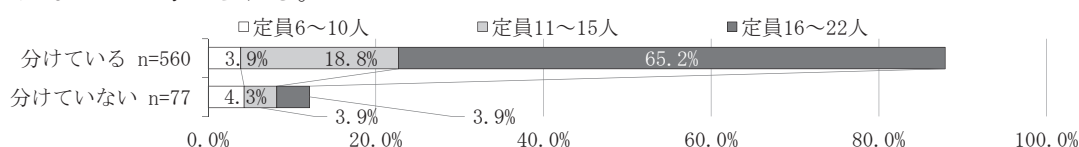


図6 児童用便所と職員用便所の分離 (N=637)

⑦ 手洗い設備

手洗い設備設置について表5に示す。「児童用と職員用を分けている」は全体の約半数にとどまり、定員6～10人および定員11～15人規模の施設では、「分けていない」が「分けている」を上回る結果となった。さ

さらに「調理専用」「便所専用」手洗い設備については、いずれも「設置していない」が全体の約25%にのぼり、一部の施設では手洗い設備が不十分で、適切な場所や用途に応じた衛生的な手洗いが難しい状況にあることが分かった。

表5 手洗い設備の設置状況 (N=637)

| | | 計 | 規模(受託児童定員数) | | |
|---------------|---------|-------------|-------------|------------|------------|
| | | | 6～10人 | 11～15人 | 16～22人 |
| 計(母数) | | 637 (100.0) | 52 (8.2) | 145 (22.8) | 440 (69.1) |
| 児童用と職員用の分離 | 分けている | 334 (52.4) | 20 (3.1) | 70 (11.0) | 244 (38.3) |
| | 分けていない | 303 (47.6) | 32 (5.0) | 75 (11.8) | 196 (30.8) |
| 調理専用(調理スペース内) | 設置している | 462 (72.5) | 26 (4.1) | 89 (14.0) | 347 (54.5) |
| | 設置していない | 159 (25.0) | 24 (3.8) | 51 (8.0) | 84 (13.2) |
| | 調理室なし | 16 (2.5) | 2 (0.3) | 5 (0.8) | 9 (1.4) |
| 便所専用 | 設置している | 484 (76.0) | 30 (4.7) | 114 (17.9) | 340 (53.4) |
| | 設置していない | 153 (24.0) | 22 (3.5) | 31 (4.9) | 100 (15.7) |

各欄の数字は事例数、()内は637件に対する百分率を示す。

⑧ 遊びのコーナー

遊びのコーナーの種類を表6に示し、設置の有無を図7に示す。遊びのコーナーを「設けている」が53.2%で約半数を占めたが、定員6～10人規模の施設においては、「設けていない」が多い結果となった。コーナーの種類では「絵本」が41.3%、次いで「ごっこ遊び」が38.9%、「創作遊び」が20.4%であった。

表6 遊びのコーナーの種類 (N=637)

| コーナーの種類 | 施設数 | コーナーの種類 | 施設数 |
|---------|------------|---------|------------|
| 運動遊び | 39 (6.1) | 絵本 | 263 (41.3) |
| 創作遊び | 130 (20.4) | 玩具遊び | 61 (9.6) |
| ゲーム遊び | 68 (10.7) | 自然遊び | 4 (0.6) |
| ごっこ遊び | 246 (38.9) | その他の遊び | 20 (3.1) |

各欄の数字は事例数、()内は637件に対する百分率を示す。

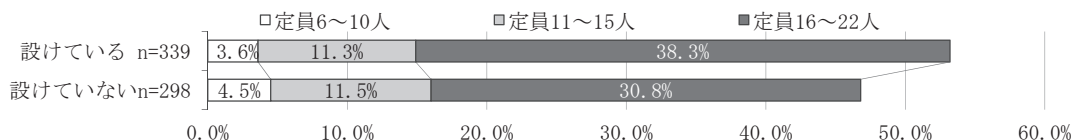


図7 遊びのコーナーの設置 (N=637)

6. 施設整備と開設前の状況

施設開設時の整備内容と、開設前の施設用途を表7に示す。

① 新築・改築・改修

開設にあたり建物を新築したか、改築・改修をしたかの問いに対して、「改築・改修」が71.6%で最も多く、次いで「新築」が23.9%、「既存の施設」が4.4%であった。特に定員6～10人規模の施設においては、「改築・改修」の回答が52件中44件で8割以上であったのに対し、「新築」の回答は2件のみで最も少ない結果となった。

② 開設前の施設用途

開設前の施設用途は「店舗・オフィス等」が36.3%で最も多く、次いで「住居」が15.8%、「本園の一部」が8.2%であった。さらに「医療・福祉施設」「幼稚園・学校の一部」「行政施設の一部」など、福祉施設や公的施設の空き部屋等を利用した施設が見受けられ、多くの自治体の小規模保育施設において、敷地内に屋外遊戯場設置が義務づけられていない点も関係しているのではないかと考えられる。

表7 施設の改築・改修と開設前の状況 (N=637)

| | | 計 | 規模（受託児童定員数） | | |
|------------------|------------|------------|-------------|-----------|-----------|
| | | | 6～10人 | 11～15人 | 16～22人 |
| 計（母数） | | 637（100.0） | 52（8.2） | 145（22.7） | 440（69.1） |
| 新築 改築 改修 | 新築 | 152（23.9） | 2（0.3） | 32（5.0） | 118（18.6） |
| | 改築・改修 | 456（71.6） | 44（6.9） | 104（16.3） | 308（48.4） |
| | 既存の施設 | 28（4.4） | 6（0.9） | 9（1.4） | 13（2.1） |
| | 増築 | 1（0.1） | － | － | 1（0.1） |
| 開設前 の施設 用途 | 新築のため無回答 | 152（23.9） | 2（0.3） | 32（5.0） | 118（18.6） |
| | 店舗・オフィス等 | 231（36.3） | 13（2.1） | 47（7.4） | 171（26.8） |
| | 住居 | 101（15.8） | 22（3.4） | 29（4.6） | 50（7.8） |
| | 保育施設 | 22（3.4） | 1（0.1） | 5（0.8） | 16（2.5） |
| | 本園の一部 | 52（8.2） | 8（1.3） | 16（2.5） | 28（4.4） |
| | 幼稚園・学校の一部 | 19（3.0） | 2（0.3） | 4（0.6） | 13（2.1） |
| | 医療・福祉施設 | 25（3.9） | － | 5（0.8） | 20（3.1） |
| | 宗教施設 | 4（0.6） | 1（0.1） | 1（0.1） | 2（0.3） |
| | 行政施設の一部 | 7（1.1） | 2（0.3） | 1（0.1） | 4（0.6） |
| | 幼児教育・塾など | 8（1.3） | － | 4（0.6） | 4（0.6） |
| | その他（銀行・工場） | 16（2.5） | 1（0.1） | 1（0.1） | 14（2.2） |
| 開設前 の説明 | 特に行わなかった | 248（39.0） | 25（3.9） | 54（8.5） | 169（26.5） |
| | 説明会を行った | 74（11.6） | 4（0.6） | 12（1.9） | 58（9.1） |
| | 戸別訪問を行った | 236（37.1） | 22（3.5） | 65（10.2） | 149（23.4） |
| | 説明会と戸別訪問 | 12（1.9） | － | 1（0.1） | 11（1.7） |
| | ポスティング | 11（1.7） | － | 3（0.5） | 8（1.3） |
| | 戸別訪問とポスティ | 6（0.9） | － | 1（0.1） | 5（0.8） |
| | 回覧板または掲示板 | 2（0.3） | － | 1（0.1） | 1（0.1） |
| | 自治会長、民生委員等 | 11（1.7） | － | 1（0.1） | 10（1.6） |
| | 不明（前任者の記録） | 37（5.8） | 1（0.1） | 7（1.1） | 29（4.6） |

各欄の数字は事例数、()内は637件に対する百分率を示す。

③ 開設前の説明

施設開設前に理解を求めるための説明をしたかの問いに対して、「特に行わなかった」が39.0%で最も多い回答となった。次いで「戸別訪問を行った」が37.1%でほぼ同率となり、「説明会を行った」が11.6%、「説明会と戸別訪問」が1.9%で、約半数の施設が開設の理解を得るため、近隣への説明を行っていることが分かった。

7. 連携施設と周辺住民との関係

連携施設の確保状況、支援内容、および周辺住民との関係を以下に示す。

① 連携施設の確保状況

連携施設の確保状況を図8に示し、調整方法について図9に示す。国の基準では、平成31年度(2020年3月)末までを、連携施設確保の経過措置期間としているが、同9月現在では「調整中」が4.0%、「確保できていない」が7.4%であり、全体の約1割が連携施設を持たない状況であった。また連携施設確保の調整は「保育園単独」が66.1%であり、保育園側に調整が任されているとの回答が6割以上にのぼった。

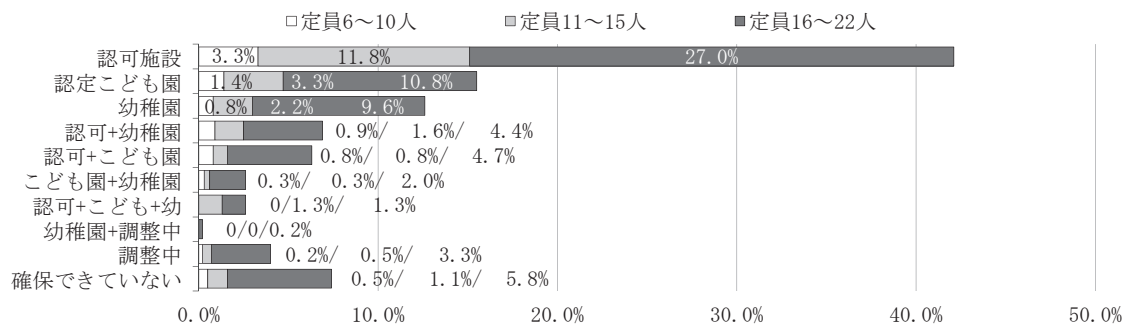


図8 連携施設の確保状況 (N=637)

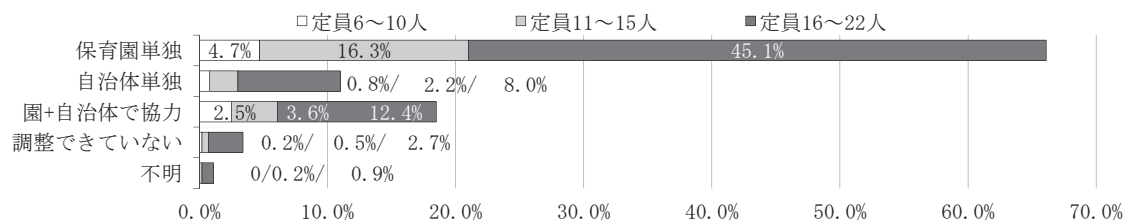


図9 連携施設の調整方法 (N=637)

② 連携施設の支援内容

連携施設の支援内容を表8に示す。3歳児以降の保育の場を確保するための「卒園後の受け皿」が78.3%で最も多く、次いで「行事等の交流保育」が52.9%、「情報入手・相談」が45.4%、「施設利用(園庭・プール等)」が42.2%であった。国の基準である連携施設の3要件「(ア)保育内容支援」、「(イ)代替保育」、「(ウ)卒園児の受け皿の確保」のうち、(ウ)が最も重視される結果となった。

表8 連携施設の支援内容 (N=637)

| 支援内容 | 施設数 | 支援内容 | 施設数 |
|--------------|------------|---------|------------|
| 行事等の交流保育 | 337 (52.9) | 健康診断 | 93 (14.6) |
| 施設利用(園庭・プール) | 269 (42.2) | 代替保育 | 162 (25.4) |
| 情報入手・相談 | 289 (45.4) | 土日祝合同保育 | 7 (1.1) |
| 職員交流・研修 | 211 (33.1) | 卒園後の受け皿 | 499 (78.3) |

各欄の数字は事例数、()内は637件に対する百分率を示す。

③ 周辺住民との交流

周辺住民との交流内容を表9に示す。

し、交流の有無を図10に示す。周辺住民と「交流あり」が44.0%で、「交流なし」の56.0%を下回ったが、定員6～10人および定員11～15人規模の施設では、逆に「交流あり」の回答が多い結果となった。また交流内容は「保育園行事招待」が26.5%、「地域行事参加」が24.0%、「子育て支援」が19.8%であり、季節行事等を通じて施設・地域を拠点とした交流に取り組まれていることが分かった。

表9 周辺住民との交流内容 (N=637)

| 交流内容 | 施設数 | 交流内容 | 施設数 |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 保育園行事招待 | 95 (26.5) | 老人福祉施設交流 | 50 (14.0) |
| 地域行事参加 | 86 (24.0) | 児童館・公園交流 | 14 (3.9) |
| 子育て支援 | 71 (19.8) | 野菜・玩具差し入れ | 9 (2.5) |

各欄の数字は事例数、()内は637件に対する百分率を示す。

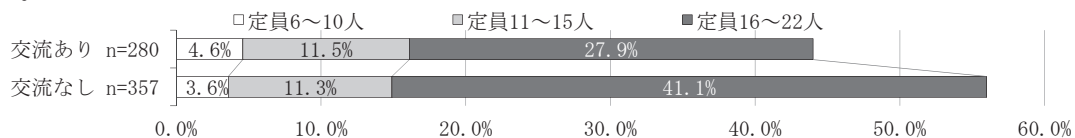


図10 周辺住民との交流 (N=637)

8. まとめ

本研究では、全国の小規模保育施設における保育運営、諸室・設備と連携施設の現状に関する基礎的知見を得ることができた。以下に詳細を示す。

- (1) 本分析対象施設では、小規模保育事業が国の認可事業として位置づけられた 2015 年以降に開設された施設が 9 割程度と大半であった。
- (2) 0 歳児、1 歳児、2 歳児と、児童の年齢ごとに、保育グループを 3 つに分けている施設は本分析対象施設全体の 5 割程度であった。
- (3) 給食に関しては、自園調理を行なっていると回答した施設は 8 割程度で、外部搬入を行なっている施設が 1 割程度、未だ計画中であると回答した施設もわずかながら見られた。
- (4) 施設の建物種類に関しては、専用建物を利用している施設と集合住宅の非居住スペースを利用している施設が多く、所有形態については賃貸と回答した施設が 7 割程度と多く見られた。
- (5) 児童一人当たりの施設面積は 5 m²以上 8 m²未満が最も多く、保育室面積においては 1.98 m²以上 3.3 m²未満が最も多く見られ、設置基準前後で設置されている状況が見られた。
- (6) 保育室の設置階に関しては、1 階に設置している施設が 8 割以上と大半を占めていたが 2 階や 3 階に設置している施設も 1 割程度見られた。
- (7) 屋外遊戯場に関しては同一敷地内に設置している施設が 4 割程度見られた一方で、近隣の公園等を利用している施設が 5 割程度に見られた。小規模保育施設にとって、公園や広場など、地域資源利用の重要性が確認できた。
- (8) 年齢別保育室分離では、別室の設置が難しい状況においても、0 歳児と 1 歳児以上を分離する傾向にあった。
- (9) 諸室と設備について、隔離可能な静養室は約 4 割、沐浴設備は約 1 割、児童専用便器は約 1 割が未設置であった。
- (10) 開設時に改築・改修した施設は約 7 割で、空きテナント・住居・福祉施設等を利用した施設が見受けられた。
- (11) 連携施設の確保済み施設は約 9 割で、卒園児の受け皿と、施設利用を含めた保育活動支援が求められる傾向にあった。

今後は、本分析対象施設における平面構成や室の使われ方、施設を取り巻く環境のあり方について、更なる分析を進める予定である。

謝辞

本研究の一部は JSPS 科研費 JP18K02510 の助成を受けたものです。

調査を行う上で貴重なご意見をいただいた、子どもの領域研究所 代表の尾木まり先生を始め、アンケートにご協力をくださった全国の小規模保育施設の方々や、研究に参加した帝塚山大学卒業生の樽谷恵理さんに厚く謝意を示します。

参考文献

- 1) 辻川・吉住：小規模保育施設における保育運営と施設の状況について（小規模保育施設の建築計画的研究所その 3）、日本建築学会大会学術講演梗概集、PP. 745-746、2020. 9
- 2) 吉住・辻川：小規模保育施設における保育空間と連携施設の現状について（小規模保育施設の建築計画的研究所その 4）、日本建築学会大会学術講演梗概集、PP. 747-748、2020. 9